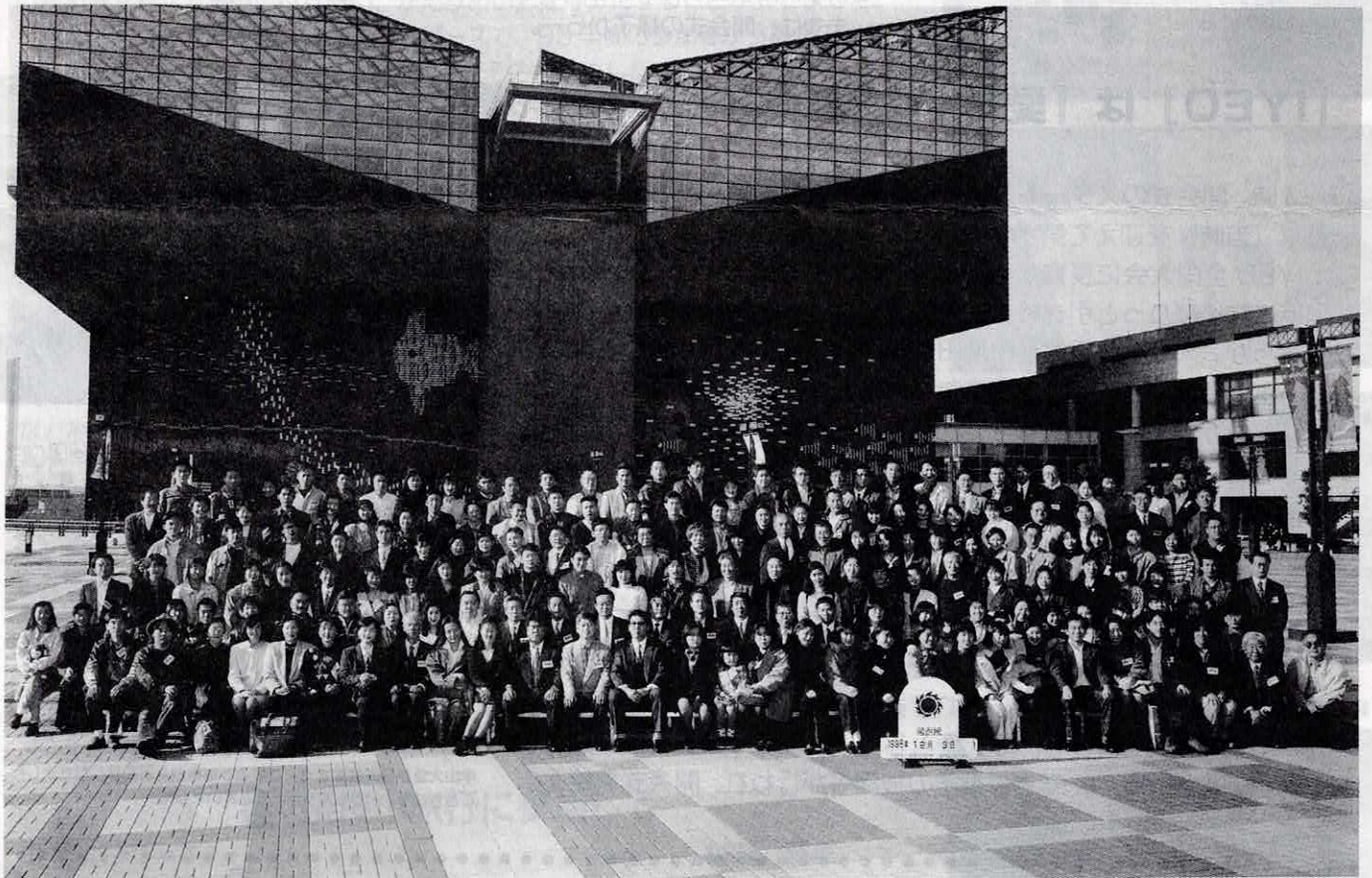


一九九六年四月二十日発行

大阪府青年国際交流機構

会長 増田 健司

潑標



今号の紙面

第11回全国大会報告特集！

第8回世界青年の船帰国！

no. 61

であった！
ふれあった！
かたりあった！

IYEO 第11回 全国大会を終えて

昨年12月2日～3日、三井アーバンホテル大阪ベイタワーにおいて日本青年国際交流機構第11回全国大会が、約400名の参会者を得て盛大に催されました。テーマは『であい、ふれあい、かたりあい ー今、この時代を共に生きるー』テーマにふさわしく、多くの人が楽しく出会い、そしてにぎやかに語り合っていました。その様子をここに少しご紹介しましょう。まずは、開会式の様子からー。

『IYEO』は『愛はいいよー』

3時。開会式のスタート。ぎっしり埋った会場に、中山正暉総務庁長官(当時)を迎えて第11回全国大会開会式が開かれました。

IYEO全国大会に長官が出席されるのは初めてということもあり、何時になくぴりっと引き締まった式典になったと感じたのは私だけでしょうか。大会実行委員長の増田健司大阪IYEO会長の開会宣言のあと、主催者挨拶として演台に立たれた長官は、自らの声でIYEO会員達に語りかけるように挨拶を始められました。その冒頭に、IYEOをもじって、「愛はいいよー」と聞こえるという、ユーモアあふれる愛称を贈って下さり、参会者からの大喝采を受けました。

挨拶の中では、世界の中で日本の置かれている立場に言及され、今回のテーマでもある『今、この時代を共に生きる』ために、青年達の力を大いに発揮してほしいとの励ましが語られました。

のち、IYEO大森充会長から、続いて財団法人青少年国際交流推進センター山田馨司理事長からそれぞれ主催者としての挨拶がありました。そして、来賓の皆さんの代表として、大阪府の松廣屋慎二副知事から歓迎の挨拶をいただき、祝電の披露等が行われ、開会式を終えました。



中山大臣から大会後すぐ、このような素敵なお礼状が届きました。こちらこそ、どうもありがとうございました。

理想の全国大会

(財) 青少年国際交流推進センター理事長(第16回青年の船管理官) 山田馨司

IYEOの全国大会は、青少年国際交流事業事後活動推進大会(総務庁青少年対策本部主催)、日本青年国際交流機構全国大会(IYEO主催)及び青少年国際交流全国フォーラム(青少年国際交流推進センター主催)の三つの行事が一体となって行われています。

この大会に期待されているのは、①IYEOの会員間の絆を強めること、②国際交流に対する関心や理解を深めること、③国際交流の輪を広げること、そして何よりも④楽しいこと、の4点に要約できるのではないのでしょうか。

今回の大阪大会は、基調講演、パネルディスカッションは充実していましたし、懇談会は民族衣装を中心とした演出で楽しく国際色豊かな雰囲気作りにも成功していましたし、パーティー後は、二次会の部屋が十

分用意され、旧交を温めることができました。国際交流パネル展では、政府事業のほかに様々な団体の活動もにぎやかに紹介されていて、他団体との連携の強さを感じさせました。

二日目の「海遊館」も素晴らしい所でしたし、5コースに分かれての「小旅行」も近畿ならではのバラエティーに富んだ企画でした。

欲を言えば、懇談会や小旅行にももう少し外国青年が参加してくれれば申し分なかったと思いますが、まず理想的な全国大会だったと言えるのではないのでしょうか。参加者数から言っても、東京大会を凌ぐような立派な大会を成功させた実行委員会の皆様のご苦労に敬意を表し、ご協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

盛り上がったよ！ 国際交流フォーラム

永久欣也



全国大会1日目のプログラムのメインでもあった国際交流フォーラム。今回は、第一部をイーデス・ハンソンさんに基調講演をお願いし、第2部をパネルトークという形で実施。最後まで、300人近い方々が熱心に耳を傾けておられ「もう少し時間がほしかった！」という声があちこちから出るほどでした。

【第一部】 第一部は、イーデス・ハンソンさんの基調講演。ご存じのようにハンソンさんは、現在、国際人権擁護団体として有名な、アムネスティ・インターナショナル日本支部の支部長を努めておられますが、ハンソンさんの眼から見た日本の国際交流の在り方について、ちょっぴり皮肉も交えてのお話しをしていただきました。

「国際交流というものは今流行のようなもので、どんな田舎でも、その言葉を聞く。何か、言葉だけが一人歩きをしていて中味がないものが多いのではないか。自分の生活の中に、どういう人達がいれば国際化が進んだと言えるのか。何ができれば国際人と言えるのかを聞いてみてもいい加減な答えしか返ってこない。本当に具体的なものが何もないのが現実である。関西新空港の開港や、APEC大阪会議も単にお祭り騒ぎにし過ぎず、国際化の決め手ではない。本当に大事なことは人間としてどう生きるかということであり、人権の意識を持つことである。人権の意識を持つ上で大事なことは、できる限りの『想像力』を働かせて相手の立場に立ったり、相手の気持ちを理解しようとする事で、国際交流、国際化というものは、そういった基本的人権の意識から始めることが大切であり、その心が、本当の交流や国際化を支えていき、いい意味でのネットワークをつくることのできるのである。」

【第二部】 第二部は、イーデス・ハンソンさんにも加わっていただき、国際交流や国際親善といった活動のため、関西で活躍されている4名の方を中心としたパネルトーク。

鬼木たまみさんは、関西国際交流団体協議会のスタッフとして、国際交流・国際協力の情報収集や提供といった仕事を通しての立場から、ネットワークづくりの大切さとその必要性を述べてくださり、兵庫県社会福祉協議会ボランティアセンターの主事でもあり、ボランティアグループ「すまいる」代表でもある桑原英文さんは、先の阪神・淡路大震災での救援活動やフィリピンでの援助活動などから、人と人とのつながりの大切さを語っていただきました。また、在日外国人向けに開局されたばかりのラジオ局「FM CO-CO-LO」でタイの番組制作を担当、東南アジア青年の船OBでもある松尾カニタさんは、番組づくりでの苦勞や、在日外国人の眼から見た日本の国際交流の現実を語ってくださり、一幅隆之さんは、日韓青年親善交流事業のメンバーとして帰国したばかりではありますが、中学時代からの韓国ファンで、韓国への思い入れを熱弁していただきました。国際交流や国際協力といった方法では、それぞれ異なった活動の持ち主の4名の方々ではありましたが、人と人との出会いや、ネットワークの大切さといったことでは全員の意見が一致していたように思います。



他人のために一生懸命に

12月2日の講演会では、アムネスティ・インターナショナル日本支部支部長であるイーデス・ハンソンさんが、国際理解や国際交流について語ってくれました。

私がイーデス・ハンソンさんの名前を知ったのは、「チルドレンズライツ」という一冊の本を読んでからです。その本では、子どもと教育の在り方、どのようにして子どもの権利を守っていくかについて、ハンソンさんは述べていました。この本を読み、私は、現在地球上において、まだ多くの子どもたちが差別や虐待を受け、子どもの権利が侵害されているという事実を目のあたりにし、とても考えさせられました。実際、ハンソンさんの講演を聴き、想像通りの人で、とてもうれしかったです。

高3（インターナショナルスクール） 藤田仁奈美

また、国際交流パネル展もやっていて、日本のNGO団体の活動を知ることができました。その活動団体の数の多さ、実績に、これまた驚かされました。これらの団体を知ることによって世界の見方が広がるし、国際社会において自分のできることもはっきり見えてくると思います。

この講演会に参加し、何よりも強く体感したことは、他人のために一生懸命になることのできる人が大勢いるということでした。世界がすべて利害によって動いていくということを認めざるを得ない現在において、NGOや民間レベルの活動こそが新たな息吹を与え、国を、世界を活性化させていく重要な役割を担っていきける。そういった人々の熱意や自信が感じられました。

民族衣装で大変身!

楽しかったよ、仮装パーティー!



講演会・フォーラムの後はいよいよ懇談会。たくさんの人達が持参の民族衣装に着替えてパーティー会場へ。ベイタワーホールがたちまち色とりどり、国際色豊かな集まりに大変身! 上半身裸ポリネシア風? 男の開会宣言に始まり、ダンスあり、クイズありの2時間の間に食事もおしゃべりもと忙しく、楽しい集いはアツと言う間に過ぎていきました。その後の二次会も盛り上がり、市内へ繰り出す者、51階のエアーシップに集う者、日が変わるまで賑やかな一日が繰り広げられました。さてこの日一日で、どれだけの出会いと交流があったのでしょうか?!



各方面から反響を呼んだ(!?) フィジーダンスでしたが、実のところギリギリまで人が集まらずに困っておりました。しかし

ノリのいい、第7回世界船メンバーのこと。北は東北南は九州の美女(!?) が直前にこの大役を引き受けて、集中的な練習を乗り越え、まさに、「ひと肌脱いだ」衣装で本番を迎えました。自信も何も無く無心に踊った私たちに、暖かい声援と拍手を送って下さり、胸がいっぱいになったのを今でも覚えています。他の踊り子たちも心から喜んでおりました。本当にありがとうございました。

こうしてフィジーダンスにより「ダンサー」の異名をとるまでに強烈な印象を与えた全国大会は、私たちにとって「ダンサー」としてのデビューとなりました。と言いたところですが、私たちは貴重な経験として心に留めるのみで、カムバックはしませんのであしからず。

第7回世界船 上田菜保子

(上田さんは残念ながら4月より熊本に帰省されることになりました。熊本でのご活躍をお祈りしています!)



「みんながんばってるね！」 国際交流パネル展

会場の前では、総務庁の各事業・インターコミュニケーション大阪・NGO団体・近畿各府県を紹介するコーナーなどが設けられ、待ち時間やプログラムの合間に多くの人が新しい出会いのひとときを過ごされました。パネル展に協力してくださった各団体の皆様、どうもありがとうございました。

第11回全国大会に参加して

青年海外協力隊大阪府OB会 内田 早苗

IYEO第11回全国大会、日帰り組で参加しました。国際交流パネル展や民族衣装の企画など、初めての方でも話題が採りやすい計らいがあり、私のような会員以外の参加者でも「であい、ふれあい、かたりあい」を存分にすることができました。

パネル展でのことです。日韓交流のブースで、95年度の参加者から事業の説明を受けました。実に楽しそうに語る方で興味をそそられました。「いい経験ですよ。」と、私にも勧めてくれましたが、年齢オーバーであることを伝えると今度は一般社員について教えてくれ、OBの帰国後レポートを出して見せてくれたりしました。熱心なこのかたの様子から、素晴らしい体験をされたことがよくわかりました。活動報告のパネル以上にこの方自身に説得力があるという感じでした。懇親会の席でも皆様が生き生きと誇らしそうに体験談をなさるので感動がこちらにまで伝わってきて、聞いていて興奮いたしました。

今回フォーラムは、一般からの参加を意識して内容を入門編にしたそうですが、参加者は経験者がほとんどを占めていたようで、もったいなくはなかったでしょうか。時々、協力隊の募集説明会でみかけるのですが、途上国は教えに行く所で教わることなどないように言う人がいます。双方向性、相互理解の重要性が認識されていないようで、そのような国際交流の初心者こそ聞いてほしいフォーラムだったと思いました。

本大会では自分とは違う海外経験をお持ちの方々がたくさんのお会いをさせていただき、ありがとうございました。たいへん良い刺激を受けました。テーマであった、“今、この時代を共に生きる”仲間があることの素晴らしさを感じ、その輪を世界に広げていくことの楽しさを再確認いたしました。



近畿を再発見した小旅行！

二日目はホテル最上階でのさわやかな（でない方も若干？）朝食の後、海遊館へバスで移動。閉会式で次回大会の開催地である宮崎での再会を約し、海遊館見学、そして、お待ちかね近畿小旅行へと散っ ていかれました。バスに乗り遅れるというハプニングもありましたが、各コースそれぞれ楽しい旅を満喫されたようでした。

● 奈良小旅行に参加して

村岡 留美

● まず始めに小旅行でいろいろとご尽力下さった奈良県支部の方々に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

● 奈良のコースの中で私が一番楽しみにしていたのは西大寺の大茶盛でした。普段テレビでしか見たことのないあのビッグなお茶碗をぜひ一目見たかったからです。一通り西大寺についての説明を受けた後別邸へと案内され、神妙な面持ちだけれど内心ワクワクしながら着座しました。そして出てきたお道具にびっくり！茶しゃく・茶せんをはじめ、ひしゃく・ふくさなどすべてがジャンボサイズだったからです。それを大胆に扱ながらのお手前は見事なものでした。さて、いよいよ大茶碗が目の前に。なるほど近くで見るともつとすごい！とてもじゃないけれど一人では持ち上げられず、左右から支えてもらいながら少しずつ注意していただきました。それでも時には唇の上までお抹茶がドッと押し寄せて（？）きたり、なかなか飲むのに苦労しました。一定の人数が集まらないと開いてもらえないという大茶盛。一個人では特別な催事でない限り味わえない体験ができ、とてもラッキーだったと思っています。

● その他東大寺の大仏殿では、お寺の案内の方がついてくださり、わかりやすい説明で退屈することもなく楽しく拝観することができました。

● 奈良のスタッフの方々には渋滞のためにコースを変更したり、電車に切り替えて移動するなど、適切な判断で誘導して下さい、本当にご苦労だったと思います。おかげで時間のロスもなく、充実した一日を過ごすことができた、私自身喜んでます。今度はまた、奈良の中の別の方面へ行ってみたいという気持ちが湧いてきているところです。

●



